



東京文化発信
プロジェクト

TOKYO ART RESEARCH LAB 2012

アートの場合作りを目指す人のための、
「知」と「スキル」と「ネットワーキング」のラボ

taul

アイデアが先か、お金が先か、人脈が先か、知識が先か？

Tokyo Art Research Lab（以下、TARL）は、アートの知識を持ち、アーティストやキュレーターなどの専門家、あるいは地域の人々とコミュニケーションを図り、予期しない出来事が起こりうる現場で、臨機応変に対応することのできる人材を育成するプログラムです。3年目となる今年度は、アートの基礎知識から、アートプロジェクトの企画立案、管理運営、アートと人をつなげる方法、そして記録を残す方法まで11の講座を開講し、実践に必要な「知」や「スキル」を受講生のみなさんと共有します。

また、本プログラムは、東京都と東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）が展開する、「東京アートポイント計画」の一環として実施されます。東京

をはじめとするさまざまな地域で展開されるアートプロジェクトを事例にとりあげながら「知」や「スキル」に厚みをもたせ、さらにアートの現場へ還元するように働きかけを行います。

地域社会や関わる人々、また時代などの要素によってさまざまに変化・変容するアートプロジェクト。その絶えず形を変えながら動いている状況において、「学んだこと」がいかに関「現場」を動かし、人々にエネルギーを与えることができるのでしょうか。アートの力と人々を結ぶ状況を自分たちで作る。そのはじめの一步がここにあります。

TARLの11の講座のうち、平成24年5月末時点で決定している講座の情報を簡潔にご紹介しています。以降に決定した情報及び、講座各回の内容やゲストプロフィール、最新スケジュールなどの詳細はウェブサイトにてご案内しています。

最新の講座情報の他にも、過去の講座のレポートや、講座の実施を通して制作された成果物（プロジェクトツール・ドキュメント類）が公開されています。また、「Researcher's Voice」というコーナーやソーシャルメディアでは、TARLの日々の活動の様子や、東京アートポイント計画をはじめとするさまざまなアートプロジェクトに関する情報を、リサーチャーの手により発信しています。

Twitter ID @tarl_office

Facebook Page <http://www.facebook.com/tarl302>

最新・詳細情報はウェブサイトをご覧ください

<http://tarl.jp>

2012 ラインナップと受講システム

テーマ	講座名称	受講形式	開始時期（締切）	ページ
基礎体力をつける	アートプロジェクトの0123 <small>オピッドニューサン</small>	連続	6月（5/31）	5
	日本型アートプロジェクトの歴史と現在II	連続	第1期：7/13（7/10） 第2期：12/12（12/9）	6
	アート社会論II	公開	冬季（随時）※予定	7
企画力をつける	渋谷アートファクトリー計画 DIWO Lab. <small>Do It With Others! 新世代ものづくり実験シリーズ</small>	公開	7月（随時）	8
	実践！プロジェクトデザイン	実践	6/27（6/22）	9
	構造茶話会 —プロジェクト構造論	連続	7/3（6/29）	10
現場力を鍛える	「組織」から考えるアートプロジェクトの可能性	連続（一部公開）	9/18（9/11）	11
	Creators and Law —Creative Projectのためのリーガル・デザイン	公開	9月（随時）	12
記録や評価について学ぶ	P+ARCHIVE：リアルARTプロジェクト・アーカイビング実践	実践	5月（5/29）	13
	「評価」のためのリサーチの設計と実践	実践（一部公開）	7月（随時）	14
「知」と「スキル」をネットワークする	ネットワーキング・ラボ	公開	7/1（随時）	15

連続

シリーズ全回への参加を前提として、コーディネーターらとともにテーマについて研究・考察します。

※一部、部分的な受講や途中からの参加が可能なものもあります。

実践

シリーズ全回への参加を前提として、テーマに沿ったリサーチやワークショップなどを行う実践的なプログラムです。

公開

部分的な受講が可能であったり参加費が無料であったりと、トークイベント気分で気軽に参加できるプログラムです。

※講座により、受講スタイルや申込方法が異なります。

申込資格・方法

- ・ TARLのコンセプトに共感いただける方ならどなたでもご参加いただけます。
- ・ 申込方法につきましては、講座によって異なりますので各ウェブページにてご確認ください。(原則として、ウェブフォームやメールによりお申し込みいただきます)
- ・ 定員のある講座については、先着や選考により受講者の数を調整させていただきますのでご了承ください。

受講特典

- ・ 希望者の方は、TARLの各講座を運営する団体やTARL事務局、また東京アートポイント計画の最新情報をメールニュース等で受け取ることができます。
- ・ TARLや東京アートポイント計画関連事業のドキュメント等の成果物配布について、優先的にご案内いたします。(部数、方法は種類により異なります)
- ・ 東京文化発信プロジェクトROOM302の告知コーナーをご利用いただけます。チラシ類の配架およびコメント掲出が可能です。
- ・ TARLのFacebookグループにご招待します。他講座の受講生やリサーチャーと情報や意見の交換をしていきましょう!

メイン会場

東京文化発信プロジェクト ROOM302

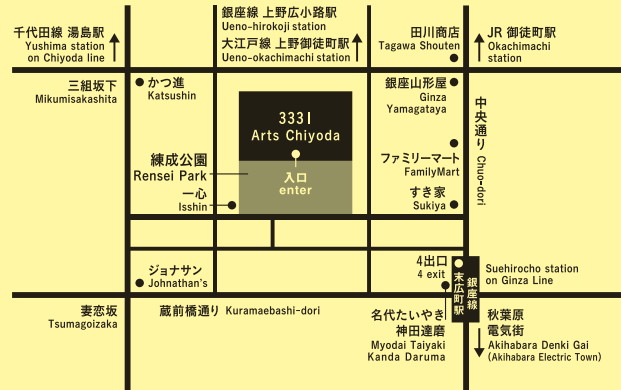
さまざまなジャンルの第一線で活躍するアーティストやクリエイターが集うアートセンター「3331 Arts Chiyoda」内に、2010年に誕生。3階にあるROOM302は、TARLのほとんどの講座が行われるレクチャールームです。元音楽室を改修した気持ちの良い空間で、アートプロジェクトに関するさまざまな資料や、東京アートポイント計画に関する情報を閲覧することもできます。※一部講座については、別の会場で行われる場合があります。

住所

〒101-0021 東京都千代田区外神田 6-11-14
(3331 Arts Chiyoda 3F)

アクセス

東京メトロ銀座線末広町駅より徒歩1分、
東京メトロ千代田線湯島駅より徒歩3分、
JR御徒町駅より徒歩7分、JR秋葉原駅より徒歩8分



アートプロジェクトの0123

オ イッチ ニー サン

コーディネーター
小川希

一般社団法人 TERATOTERA チーフディレクター
Art Center Ongoing 代表

連続

アートプロジェクトやアーティストについて基礎的な知識を得たい方
アートプロジェクトの担い手として一歩を踏み出したい方

05

アートプロジェクトにかかわるための、はじめの一歩

本講座は、これから現場でアートプロジェクトに携わってゆこうと考えている方に向け、アートの歴史や基礎的な概念を学び、さまざまなアートプロジェクトの可能性についてディスカッションをしながら、アートの現場をつくる「準備運動」を行います。アートプロジェクトという長距離マラソンは、この準備があつてこそ。スタートラインに立つ前にいろいろな箇所をしっかりと伸ばしておきましょう。アタマとカラダを解放して、さあ、みんなでアートプロジェクトの0123!

オ イッチ ニー サン

小川希

2002年から2006年にわたり、若手アーティストを対象とした大規模な公募展覧会『Ongoing』を開催。2008年吉祥寺に芸術複合施設 Art Center Ongoing を設立、代表を務める。JR中央線沿線エリアを舞台としたアートプロジェクト TERATOTERA のチーフディレクターを務める。

■ アートの歴史・アートの概念を学ぶ

コンセプチュアルアート／絵画からインスタレーションへ／映像表現とは何か

■ アーティストを知る

ゲスト：遠藤一郎（未来美術家）、浅井裕介（アーティスト）、山本高之（アーティスト）

■ 文章力やデザイン力を身につける

ゲスト：白坂ゆり（美術ライター）、福住廉（美術評論家）

■ アートプロジェクトを体験する

ゲスト：金森香（シアタープロダクツ プロデューサー／プレス）、山出淳也（BEPPU PROJECT 代表）、藪前知子（東京都現代美術館 学芸員）、住友文彦（アートディレクター）

■ 隣人と議論する

開催日時 2012年6月～2013年2月（概ね隔週水曜日 20:00～22:00）

会場 グランキヨスク（武蔵野市吉祥寺本町1-33-10 丸二ビル 2F）

受講費 全19回 20,000円（学生10,000円）

定員 20名

主催 東京都、東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）
一般社団法人TERATOTERA

申込方法 先行開始講座につき、5月31日に申し込みを締切りました

日本型アートプロジェクトの歴史と現在Ⅱ

コーディネーター

熊倉純子

東京藝術大学音楽環境創造科教授

連続

アートプロジェクトや被災地での芸術活動に関心のある方
アートプロジェクトの担い手を目指している方

06

定義の試み & 3.11 以降の動き

再考—いまとこれからのアートプロジェクト

日本におけるアートプロジェクトの現在進行形を、ケーススタディと理論化の双方から考えていきます。アートプロジェクトとは何を指すのか、また何をもってアートプロジェクトと呼ぶのか。第1期では定義を言葉にすることを試みます。第2期ではこの内容をふまえながら、ゲストを交えて3.11以降のアートプロジェクトの現状と未来を探ります。なお、一連の内容は「アートプロジェクトとは何か」と題したドキュメントにまとめられます。

熊倉純子

パリ第十大学、慶應義塾大学卒業。1992年から2002年まで(社)企業メセナ協議会で企業のメセナ活動や芸術普及プログラムなどの研究・開発に携わる。専門は文化環境論(文化支援)、アートマネジメント。2002年より東京藝術大学に新設された音楽環境創造科で社会と芸術を結ぶ人材を養成する。

第1期：

日本型アートプロジェクトとは何か(レクチャー)

- ① 歴史的な位置づけとその変遷
- ② 多様な担い手たちと社会からの期待
- ③ 芸術家たちのふるまい

第2期：

3.11以降のアートプロジェクトの変容(レクチャー & ゲストトーク)

- ① 総論：被災地での芸術活動について
- ② 被災地でのアートプロジェクトを事例に
- ③ 原発事故から考える、これからのアートプロジェクト

ゲスト：佐藤李青、きむらとしろうじんじん ほか

開催日時 第1期：2012年7月13日、20日、27日 金曜 19:00～21:30
第2期：2012年12月12日、19日、26日 水曜 19:00～21:30
※19日は予定

会場 東京文化発信プロジェクトROOM302(3331 Arts Chiyoda 3F)

受講費 第1期・第2期：各3回 2,000円、全6回セット 3,000円

定員 30名

主催 東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)
アートプロジェクト研究会

申込方法 第1期：7月10日、第2期：12月9日までにウェブフォームよりお申し込み
ください(以降は残席分を各期初回当日受付)

アート社会論Ⅱ

コーディネーター

港千尋

写真家、著述家

公開

アートプロジェクトの実践者で、
自らの活動を現在の社会に位置づけ、言語化したい方

07

アートの実践を言語化し、他者へ伝えるために

従来「文化」の枠組みのなかでとらえられてきたアートは、時代の大きな変動のなかで、経済や政治の領域にまで広がる、超文化的な概念となりつつあります。この講座では広くアートと社会の関係を考えるうえで専門的な知見も持つゲストのレクチャーやコーディネーターとの対話を行います。アートを社会変動との関係において眺め、理論と実践の双方からわたしたちの現在と未来について考えてみたいと思います。

港千尋

1960年生まれ。1995年より多摩美術大学情報デザイン学科教授。オックスフォード大学客員研究員。著書・作品集多数。記憶とイメージをテーマに、映像人類学など幅広い活動をつづけている。近著に『書物の変』（せりか書房）、『愛の小さな歴史』（インスク립ト）、『バリを歩く』（NTT出版）。最近の展覧会に『レヴィ=ストロースの庭』（Cスクエア名古屋）、『アジアの痕跡』（ANUギャラリーキャンベラ）。釜山ビエンナーレなど国際展のキュレーションもを行い、2007年には第52回ベネチア・ビエンナーレ日本館コミッショナーを務めた。

開催日時 冬季開講予定

会場 東京文化発信プロジェクト ROOM 302（3331 Arts Chiyoda 3F）

受講費 無料

定員 各回 40名

主催 東京都、東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）

申込方法 各回ごとにウェブフォームよりお申し込みください

渋谷アートファクトリー計画 DIWO Lab.

Do It With Others! 新世代ものづくり実験シリーズ

ディエゴ
DIWO! 渋谷発 オープン × デジタル = 新世代ものづくり

ものづくりの新たなムーブメント、FAB。テクノロジーの進化がもたらした「個」へのクリエイティビティの解放が、デジタル工作機械の登場によってリアルなものづくりにも訪れています。またデジタルによってオープン化された環境がコラボレーションやシェアを生み、“DIY”(Do It Yourself)は“DIWO”(Do It With Others)へ進化を遂げようとしています。

DIWO Lab.では、アーティストやクリエイター、エンジニアなど様々な分野で活躍する方々に最先端のデジタル工作機械とコラボレーションの場を提供し、新たなものづくりの可能性を模索します。イベントではプレゼンターによるトークを交え、アイデアの着想から制作プロセス、デジタルものづくりのナレッジなどを写真や成果物と共に完全公開していきます。

プレゼンター：名和晃平、シアタープロダクツ、田子學、真鍋大度ほか（予定）

コーディネーター

川井敏昌

FabCafe
LLP COO

岩岡孝太郎

FabCafe
LLP Fab Director

公開

アート、クリエイティブ、ものづくりに関心のある方
コラボレーション、オープンといったワードが気になっている方

08

川井敏昌

外資系企業にてクリエイティブ分野の人材コンサルティングサービスを提供する一方、メーカーとのブランド開発、商品開発のコーディネーターとして経験を積む。2006年にロフトワークに参加し、クリエイティブdivのリーダーとして大規模サイトやコンテンツ開発プロジェクトを手がける。その後、2009年より3年間シンガポールの広告代理店でデジタルストラテジックプランナーとしてアジアパシフィックのプロモーション企画を担当。2012年3月FabCafe参加のため日本へ帰国。

岩岡孝太郎

千葉大学卒業後、建築設計事務所に入社し個人住宅や集合住宅の設計を担当。その後、慶應義塾大学大学院に進学しデジタルものづくりの研究制作に従事。2011年、クリエイティブな制作環境とカフェをひとつにする“FabCafe”構想を持ってロフトワークに入社。FabCafeではディレクターとしてクリエイティブなアイデアを形にするサービスや企画を担当している。その他に、東京藝術大学芸術情報センターにて非常勤講師を担当。

開催日時 不定期 月1回 20:00～22:00(全8回)程度を予定

会場 FabCafe(東京都渋谷区道玄坂1-22-7 道玄坂ピア1F)

受講費 各回1,000円

定員 各回40名程度

主催 東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)
FabCafe LLP

申込方法 各回ごとにウェブフォームよりお申し込みください

実践！プロジェクトデザイン

コーディネーター

林千晶

米国NPOクリエイティブ・コモンズ
アジア・プロジェクト・コーディネーター

実践

アートプロジェクトの現場で、よりクリエイティブなプロジェクト実践の担い手となることを目指している方
プロジェクト運営のスキルをブラッシュアップして、自らの現場にフィードバックしたい方

09

プロジェクトを「デザイン」するとは？ エネルギッシュな女性プロジェクトマネージャーによる連続ワークショップ

アートプロジェクトを成功に導くためには、全てを俯瞰する視野を持ち、確実に実行に落とししていく「プロジェクトマネージャー」が欠かせません。チームづくり、アイデア創出、ドキュメント作成、制作物ディレクション、関係者コミュニケーション、アクティビティの実行…。本講座では、ユニークでクリエイティブなプロジェクトを実践するゲストを毎回迎え、6段階のワークショップ形式で学んでいきます。煩雑になりがちな「プロジェクト」の正体をより深く理解し、楽しむ。そして、成功する形に「デザイン」しませんか？

林千晶

1971年生、アラブ首長国育ち。早稲田大学商学部、ボストン大学大学院ジャーナリズム学科卒業。2000年に起業した「ロフトワーク」において、信頼性の高いクリエイティブサービスを提供。また、いち早くプロジェクトマネジメント（PMBOK）の知識体系を日本のクリエイティブ業界に導入。米国 PMI 認定 PMP。

- ①チームビルディング
～最適な組み合わせがイノベーションを生む～
- ②ブレインストーミング ～集合知を形にする方法～
- ③プロジェクトコンパス ～プロジェクトの羅針盤を作る～
- ④ラピッドプロトタイプ ～仮説検証のモデルを作る～
- ⑤プロトタイプテスト ～ユーザの体験からリーンに学習する～
- ⑥プレゼンテーション ～アイデアの魅力を効果的に伝える～

ゲスト：

遠藤真理子、栗栖良依

梶屋詩野（Hub Tokyo Co-Founder CEO）

片口美保子（Hub Tokyo Co-Founder COO）

渡辺ゆうか（FabLabKamakura, LLC）

開催日時 2012年6月27日、7月4日、11日、18日、25日、8月1日
水曜 19:30～21:30

会場 ロフトワーククリエイティブルーム（渋谷区道玄坂1-22-7 道玄坂ピア10F）

受講費 全6回 15,000円

定員 30名程度

主催 東京都、東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）

申込方法 6月22日までにウェブフォームよりお申し込みください
（以降は残席分を初回に当日受付）

構造茶話会 プロジェクト構造論

コーディネーター

長島 確

ドラマトルク
翻訳家

佐藤 慎也

日本大学准教授
建築家

連続

アートをつくる・活かす《仕組み》を考えようとしている方
企画・制作志望の方

10

4人のドラマトルクが〈構造〉について語り合う全7回

アートプロジェクトや作品の〈構造〉を考えられる人材が求められています。アートがプロジェクト化したいま、作品づくりのプロセスから、参加者や鑑賞者の体験の形まで、全体を見とおす視点が欠かせません。この講座では、演劇やダンスのソフト面における「構造屋」ともいべきドラマトルクが膝を突き合わせ、舞台にかぎらずさまざまなものづくりの〈構造〉について語り合い、理解を深めていきます。参加者には、その輪に加わることで、〈構造〉の見方と、新たな価値を提示する事のできるアートプロジェクトや作品の企画力を身につけていただきます。

レギュラー：熊谷保宏（日本大学教授、応用演劇）、野村政之（ドラマトルク、制作） ほか特別ゲストあり

長島 確

日本におけるドラマトルクの草分けとして、コンセプトの立案から上演テキストの編集・構成まで、身体や声とともにあることばを幅広く扱う。戯曲の翻訳のほか、さまざまな演出家や劇団の作品に参加。東京アートポイント計画では『三宅島在住アトレウス家』が進行中。

佐藤 慎也

1968年東京都生まれ。建築に留まらず、美術、演劇作品制作にも参加。『戯曲をもって町へ出よう。』コンセプト（中野成樹・長島確・矢内原美邦演出、2010）、「3331 Arts Chiyoda」改修設計（2010）、「としまアートステーション構想」策定メンバー（2011-）など。

開催日時 2012年7月3日、8月7日、9月4日、10月2日、11月6日、
12月4日、2013年1月8日 月1回 火曜 18:00～21:00

会場 旧平櫛田中邸（台東区上野桜木2-20-3）

受講費 全7回 3,000円

定員 12名程度

主催 東京都、東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）
一般社団法人ミクストメディア・プロダクト

申込方法 6月29日までにウェブフォームよりお申し込みください
（以降は残席がある場合のみ初日に当日受付）

「組織」から考えるアートプロジェクトの可能性

コーディネーター

帆足亜紀 アートコーディネーター

連続 (一部公開)

アートプロジェクトを支える仕組みについて悩んでいる方、また継続的な事業実施を支えるアートNPOのありよう(組織体)等に関心のある方

11

続くか、止まるか、それは「組織」次第かもしれない

本講座では、継続的な事業展開を可能にする「組織」のあり方について考えます。個性や価値観、動機や目的、スキルや雇用形態など異なる属性の人々の集合で展開されることの多いアートプロジェクト。現場では火事場の馬鹿力でも乗り切るシーンもあれば、疲れてマンネリ化してしまうなど、その局面はさまざま。絶えず動いているアートプロジェクトを「組織」から考えてみると、何がわかってくるのでしょうか。「そもそも、組織について考える必要があるの？」から始める連続ゼミです。

帆足亜紀

1994年、シティ大学(英)にて博物館・美術館運営修士号を取得。1997年よりフリー。国際交流基金にてアジアの美術交流事業(1997～2010)に従事、アーカスプロジェクト(2003～2007)のディレクターなど。2012年より(公財)横浜市芸術文化振興財団勤務、横浜トリエンナーレ組織委員会事務局所属。

①はじめに—そもそも「組織」について考える必要があるの？
アートを支える組織には財団法人、社団法人、NPO法人などさまざまな形態がありますが、アートプロジェクトを支えるために必要な組織とはどのような組織なのでしょう？何を目的に、そして何を目標に組織化されるのでしょうか？アートの現場の組織の現状と課題を洗い出します。

②人と役割をマッピングしてみよう

③ルールで役割を整理してみよう

④組織図が必要な条件とは？

⑤組織図が機能する条件とは？

⑥まとめ

—そろそろ「組織」について考える必要がありそうな人たちへ
ゲスト：未定

開催日時 2012年9月18日、10月16日、11月13日、12月4日、
2013年1月15日、2月12日 火曜 19:00～21:00

会場 東京文化発信プロジェクトROOM302 (3331 Arts Chiyoda 3F)

受講費 全6回 6,000円 (①⑥のみ各1,000円)

定員 30名程度

主催 東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)

申込方法 9月11日までにウェブフォームよりお申し込みください。

①⑥は公開講座として申し込み無しでご参加いただけます。

Creative Project のためのリーガル・デザイン

クラウドファンディング、コワーキングスペースなどの開かれた新しいプラットフォームにより、クリエイティブな集団の活動が社会的にインパクトを与えることが日常になりました。その反面、規模を拡大したプロジェクトを支えるために必要な法的知識は多様化・高度化しています。本シリーズでは、クリエイターへのインタビューを元に、著作権法や不動産関連法、風営法など、プロジェクトの遂行に避けられない法的課題を紹介し、ゲストと共にその解決方法を考えて行きます。

Arts and Law

2004年設立。美術、映像、音楽、デザイン、パフォーマンスアーツ、アートプロジェクトなどに携わる人々を対象とした専門アドバイスの提供と、実践的な情報のシェアを行う非営利組織。弁護士を中心に、コーディネーター、コンサルタント、研究者などのプロフェッショナルが運営を行っている。

プロジェクトの遂行に必要な法的知識を次の3つのテーマに抽出し、体系的に理解するレクチャーを行います。また、実際にプロジェクトを運営するクリエイターを招いてゲストトークを行い、現場で発生している課題の紹介と、その解決のヒントを探るセッションを行います。

- ①②「リアルスペース」をデザインする
—不動産取引、コワーキングスペース、クラブスペース運営など
- ③④「ウェブ空間」をデザインする
—利用規約、個人情報の取扱い／電子取引など
- ⑤⑥「知的財産」をデザインする
—著作権、商標権などの知的財産権、電子書籍など

ゲスト：株式会社まちづクリエイティブ 寺井元一（②）ほか

開催日時 2012年9月、11月、2013年1月（月2回ずつ）

会場 東京文化発信プロジェクトROOM302（3331 Arts Chiyoda 3F）

受講費 各テーマ 3,000円（2回1セット）

定員 30名程度

主催 東京都、東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）
Arts and Law

申込方法 各テーマ（2回1セット）ごとにウェブフォームよりお申し込みください

P+ARCHIVE：リアルARTプロジェクト・アーカイビング実践

コーディネーター

アート&ソサイエティ研究センター

実践

アート・アーカイブに関心のある方

アート・プロジェクトのスタッフ、学生の方など

13

実践を通して身につける、
アートプロジェクトの記録から公開まで

現在進行形のプロジェクトのアーカイビングに取り組むための基礎を学ぶとともに、実際にアーティスト日比野克彦による「種は船プロジェクト」をケースとして、資料を手にとり、整理やリスト化、さらには公開までの作業を習得します。これらを通じて、アーカイビングの一連の作業を経験し、記録・保存を効率的に行うフレームやマネジメント方法を参加者で共有することを目指します。

アート&ソサイエティ研究センター

都市や地域における芸術文化活動並びにパブリックアートの情報発信及び調査研究・実施活動に関する事業を行い、都市や地域の文化的発展と市民の文化環境の向上に寄与することを目的としている。『Public Art Magazine』を定期発行。

■ベーシック

ゲスト：日比野克彦（アーティスト）、筒井弥生（アート・ドキュメンテーション学会会員）、齋藤柳子（レコード・マネジメント コンサルタント、学習院大学大学院人文科学研究科 アーカイブズ学専攻博士後期課程）、柴田葵（桜美林大学非常勤講師）、松永しのぶ（国立国会図書館総務部）

■実践

オリエンテーション／連続ワークショップ（2週間に一回程度参加者の都合で決定）／デジタルアーカイブづくりの準備／アーカイブ資料の展覧会（2月予定）企画制作

〈プロジェクトの見学会&アーカイブ見学会〉

「種は船プロジェクト」in 新潟（水と土の芸術祭または大地の芸術祭に合わせて調整予定）、「CIAN」（カワマタ・アーカイブ+大地の芸術祭アーカイブ）※実費負担

開催日時 ベーシック：2012年5月30日、6月6日、13日、27日、7月11日
水曜 19:00～21:00
実践：8月下旬～2013年2月（予定）

会場 東京文化発信プロジェクトROOM302（3331 Arts Chiyoda 3F）

受講費 ベーシック+実践：5,000円、ベーシックのみ：2,500円
初回レクチャーのみ：500円

定員 20名程度

主催 東京都、東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）
NPO法人アート&ソサイエティ研究センター

申込方法 先行開始講座につき、5月29日に申し込みを締め切りました

「評価」のためのリサーチの設計と実践

コーディネーター

佐藤李青

東京アートポイント計画
プログラムオフィサー

実践 (一部公開)

アートプロジェクトにリサーチの視点で関わりたい人

プロジェクト運営の現場に評価の視点を組み入れたいと思っている人

14

評価をアートプロジェクトの運営サイクルに乗せるためにアートプロジェクトの評価に不可欠な記録、調査、検証という一連の作業を、現場とどのような関係性を築きながら、設計し、実践していくのか。そして、評価を通して、社会へどのようなインパクト(成果)を語ることができるのか。ゲストレクチャーに加え、研究会でのディスカッションを重ねながら、その手法をアートプロジェクトの運営サイクルに乗せるためのリサーチの設計と実践を行います。

佐藤李青

1982年宮城県塩釜市生まれ。国際基督教大学卒業。東京大学大学院人文社会系研究科(文化資源学)修士課程修了。同博士課程。2007～08年度、小金井市芸術文化振興計画の策定に伴う小金井市と東京大学の共同研究グループに参加。2009～10年度、小金井アートフル・アクション!実行委員会事務局長。2011年6月より現職。

①記録・調査・検証には、どのような体制が必要なのか?

ゲスト: recip (地域文化に関する情報とプロジェクト)

②何のために評価をするのか?: ステイクホルダーと目的

③どのように評価をするのか?: リサーチの手法

④評価の準備に何が 필요한のか?: アーカイヴとドキュメント

⑤何を評価するのか?: アートプロジェクトのインパクト

開催日時 2012年7月28日、以降2013年2月まで月1回土曜日を予定
※10月を除く

会場 東京文化発信プロジェクト ROOM 302 (3331 Arts Chiyoda 3F)

受講費 無料

定員 15名

主催 東京都、東京文化発信プロジェクト室 (公益財団法人東京都歴史文化財団)

申込方法 7月25日までにウェブフォームよりお申し込みください。
初回と指定のゲスト回は、公開講座として申し込み無しでご参加いただけます。

ネットワーク・ラボ

コーディネーター

小澤慶介

NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト]
TARL コーディネーター

橋本誠

アートプロデューサー、
TARL コーディネーター / リサーチャー

公開

TARLの全体像を知りたい方

アーティストやアートマネージャーの生の声を聞きたい方

15

「知」と「スキル」と「現場」をつなぐオープン・デイ

TARLの各講座とアートプロジェクトの現場をつなぐ、月1回のオープン・デイです。リサーチャーによる活動報告とディスカッション、東京アートポイント計画をはじめとするアートプロジェクト関係者を迎えるプレゼンテーション、交流会などを通して、知、人、現場のネットワーク化を図ります。TARLの受講生や東京アートポイント計画関係者に関わらず、アート好きなら誰でも参加できます。

〈7月～9月予定ゲスト〉

墨東まち見世、アートアクセスあだち、ぐるぐるヤ→ミ→

アーティスト・イン・児童館、TERATOTERA、

としまアートステーション構想

小澤慶介

ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ現代美術理論修士課程修了。
NPO法人AITでは、現代アートの学校 MADのカリキュラム編成を行うほか、展覧会プロジェクト「おきなわ時間美術館」(2007)や「環境・術」(2008)などを手掛けている。女子美術大学非常勤講師。

橋本誠

1981年生まれ。横浜国立大学教育人間科学部マルチメディア文化課程卒業。2005年よりフリーのアートプロデューサーとして活動をはじめ、2009年より東京文化発信プロジェクト室。2012年より再びフリー。主な企画にKOTOBUKIクリエイティブアクション。(横浜・寿町エリア / 2008～) など。

開催日時 2012年7月～2013年2月 第1日曜 14:00～
※1月は第2日曜

会場 東京文化発信プロジェクトROOM302 (3331 Arts Chiyoda 3F)

受講費 無料

定員 40名

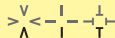
主催 東京都、東京文化発信プロジェクト室 (公益財団法人東京都歴史文化財団)
NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト]

申込方法 各回ごとにウェブフォームよりお申し込みください (当日受付は先着)

Tokyo Art Research Lab (TARL) とは

アートプロジェクトにまつわる問題や可能性をすくいあげ分析する、リサーチ型の人材育成プログラムです。アートプロジェクトを持続可能にするシステムの構築を目指します。東京の様々な人・まち・活動をアートで結ぶことで、東京の多様な魅力を地域・市民の参画により創造・発信することを目指す東京文化発信プロジェクト事業「東京アートポイント計画」の一環として実施しています。

主催：東京都、東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）
事務局：NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト]



TARL 企画・監修

東京アートポイント計画

ディレクター：森司

プログラムオフィサー：芦部玲奈、佐藤李青

TARL 運営

東京アートポイント計画

ディレクター：森司

プログラムオフィサー：芦部玲奈、井尻貴子、大内伸輔、坂本有理、佐藤李青、長尾聡子

TARL 事務局

コーディネーター：小澤慶介、橋本誠、堀内奈穂子

リサーチャー：石井萌、小澤恭子、三木茜、吉川晃司

事務局アシスタント：藤田汐路

広報アシスタント：大隈理恵

お問い合わせ

東京アートポイント計画やTARL全般に関するお問い合わせ

東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）

〒130-0026 東京都墨田区両国3-19-5 シュタム両国5階

Tel：03-5638-8803 e-mail：info-ap@bh-project.jp

<http://www.bh-project.jp>

TARLの各講座や本リーフレットについて

TARL事務局（NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト]）

〒150-0033 東京都渋谷区猿樂町30-3 ツインビル代官山B-403

Tel：080-3171-9724 e-mail：info@tarl.jp

<http://www.a-i-t.net>